

### ◎修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- 1) 研究遂行に至る読解力、資料収集、分析能力を持ち、内外へ発信する能力を培っている。
- 2) 研究倫理を遵守した上で、研究目的やその意義を正確に論述する能力を有している。
- 3) 論理的思考、創造的思考を身につけ、臨床的場面での問題点を見つけることができる。
- 4) 社会に貢献できる有為な心理臨床家としての素養を身に着けている。
- 5) 心理臨床学を基盤に、幅広く深化した高度な理論的・実践的能力を身につけ、独創的視点で修士論文をまとめる統合力、総合力を獲得している。

### ◎教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

研究力、臨床力、社会的責任・倫理観の絶妙なバランス感覚をもった、社会に求められる心理臨床家を養成するため、以下のようなカリキュラムを提供する。

- 1) 社会的責任・倫理観：  
一人の人間としてのアイデンティティを確立し、研究倫理に加え、社会に貢献できる資質を涵養できるよう研究指導、臨床指導を行う。
- 2) 研究力：  
心理臨床学をベースに、学際的に学ぶ態度（リベラルアーツ）を培えるような「専門領域」科目を開講する。また、1年次より、修士論文指導教員の修士論文作成セミナーに参加し、創造的に研究する力を養い、自らの心理臨床的関心を深めるようにする。少人数制により、独創的で社会に貢献しうる研究力を涵養し、その成果を修士論文としてまとめられるよう「特別研究」の科目を開講する。
- 3) 臨床力：  
地域貢献を踏まえた臨床心理実習を充実させた「課題研究」科目を提供する。1年次に社会人としてのマナー、コミュニケーション力を育む「臨床心理基礎実習」、学内実習として実際の相談場面を観察・陪席し、ケースカンファレンスを通して、2年次のケース担当に向けて心理臨床家としての基本的姿勢や態度、基礎的実践技能を習得することを目指す「心理実践実習Ⅰ」を開講する。2年次には「心理実践実習Ⅱ」により、学外実習の事前・事後指導及び学内実習の事例検討会を行う。さらに、「臨床心理実習」「心理実践実習Ⅲ」により、学内実習及び医療施設・福祉施設等での学外実習を提供する。これらの臨床実習を通して、他者の苦悩を想像する力、アセスメントする能力、創造的な支援（臨床心理面接）のありようを感得できるよう、スーパーヴィジョン・ケースカンファレンスを重視する。

### ◎入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

- 1) 心理臨床学のみならず、幅広い知識と教養（社会的常識）をもつ人。
- 2) 他者の気持ちを想像し、場の雰囲気や状況をよみ、自らの意志や感情を表現し、相互に伝えあい、理解しあえる素養をもつ人。
- 3) 心理臨床家として有為な存在となるべく、主体的で謙虚さをもった人。